薬学委員会 薬学教育分科会（第24期・第1回）

日時：平成30年1月23日 15:00～17:00

場所：日本学術会議6階 6-C 会議室（2）

出席者（敬称略）：望月眞弓、赤池昭紀、伊藤美千穂、太田茂、奥直人、笠原忠、安原眞人

- 議題
- （1）分科会役員の選出
 - （2）第23期の活動と報告まとめについて
 - （3）第24期の活動方針
 - （4）その他

議事録（案）

◎議題（1）分科会役員の選出 について

- 合議により、委員長に太田茂連携会員、副委員長に奥直人連携会員、幹事に堤康央連携会員と伊藤美千穂連携会員をそれぞれ選出した。

◎議題（2）第23期の活動と報告まとめについて

- 資料1、資料2に基づき、前期委員長の奥連携会員より平成29年8月17日公開の「報告 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 薬学分野（4年生教育を中心として）」の作成経緯と概略が説明された。

◎議題（3）第24期の活動方針

- コアカリキュラム（コアカリ）をもつ医学、歯学の両分野が既にコアカリとは別に参照基準を発出していることを鑑み、薬学分野も6年制教育に関する参照基準を作成する必要があると考えられるため、これを第24期の本分科会の活動方針の一つとすることとした。
- 6年制教育に関する参照基準は、第23期に作成した4年制教育を中心とした参照基準と別に作成するのではなく、4年制教育の参照基準を含む報告を改定する形で6年制教育の参照基準を加え、薬学全体として参照基準に関する一つの報告が完成する形にしたい。このためにも、6年制教育の参照基準は本分科会で作成する必要がある。
- 1期は3年間であるが、6年制教育の参照基準はコアカリを参照しながら作成するため、1年程度で完成できる見通しである。
- 以下、6年制教育の参照基準作成に関してブレインストーミング的に自由に意見交換を行った。
 - ▶ 他分野からは、薬学分野に4年制と6年制が並立していることの意味が理解されにくい（幹事会でのヒアリング時などの反応から）ようであるので、見せ方を工夫する必要があるのではないか。
 - ▶ 4年制教育の参照基準作成では薬学会に協力を依頼したが、6年制教育の参照基準作成ではどのようにするかは議論が必要であると考えられる。
 - ▶ 関連のシンポジウム等を行う際には、コアカリ改定の時期とも重なっているようであるので、コアカリと参照基準を一緒に考えるような構成にしてはどうか。
 - ▶ 一般の人々には参照基準とコアカリは何がどう違うのかが理解されていないようである。

- ▶ 参照基準は学士課程に限定して作成されるべきものであるので、大学院教育については内容的に含めることは難しい。
- ▶ 参照基準には、コアカリに含まれていない人材育成の方向性やエッセンシャルポイントなどについて記述すべきではないか。
- ▶ 多様に変化する社会状況の中で求められている薬剤師像を示せるような教育プログラムを意識しつつ、参照基準を作成するのが望ましいのではないか。
- 今後は、今回ご欠席の先生方を含めて議論をもう一度フリーディスカッション形式で行い、それから参照基準作成にとりかかることとする。

●議題（４）その他

- 次回分科会開催時に、シンポジウムのテーマと開催時期を決定する。
- 次回の分科会開催は、平成30年5月から6月ごろの予定。